

逃げないですむ建物とまちをつくる

大都市を襲う地震等の自然災害と
その対策

日本建築学会編

ISBN978-4-7655-2577-0
A5判・258頁 本体2400円＋税



本書は、東京や大阪などの大都市における震災などによる自然災害を想定し、建物やまちから「逃げない対策」を推進するために必要な知見をとりまとめた。従来の建築やまちづくりの分野における災害は地震動と火災が主な対象であったが、本書では水害や群集による人災など、複合化する都市部での災害もできるだけ網羅し、総合的な災害対策の推進を目指した。

よくわかる まちづくり読本

知っておきたい基礎知識88

香坂文夫著

ISBN978-4-7655-1762-1
A5判・220頁 本体2800円＋税



~~【失礼ございません】~~ 今、まちづくり、地域づくりは行政だけの問題ではなくなっており、地域の生活者も参加し、知恵を出し合い、活力あるまちをつくるよう求められている。本書は、まちづくりに関わる基礎的、基本的な事柄を簡潔に説明することをコンセプトとし、地域の現状や、問題点、取り組みなど、まちづくりの要点や概要を1テーマ、見開き2ページ単位の構成で、コンパクトに整理した。まちづくりに取り組む一般、まちづくりを学ぶ学生のための入門書として最適。

環境にやさしい国づくりとは？

日本そしてドイツ

K. H. フォイヤヘート・中野
加都子共著

ISBN978-4-7655-3447-5
A5判・198頁 本体2800円＋税



本書では、幅広いテーマについて、日本とドイツの共通点と違いに焦点を当て、筆者らが日本語で議論してきた内容をまとめたものです。これをもとに、「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生」という今後の目標に、日本人が希望の第一歩を踏み出すヒントを提供しています。

育水のすすめ

地下水の利用と保全

西垣誠・瀬古一郎・中村裕昭編著

ISBN978-4-7655-4476-4
B6判・196頁 本体1800円＋税



本書は地球上に存在する水のうち、地下のごく表層を流動している地下水に焦点を当て、地下水の素晴らしさを理解し、流域単位で地下水を上手に利用し続けるために、人間がやるべきことを「育水」と称して提起したものである。「育水」を形式的に定義すると「持続可能な水利用を前提に、水循環の健全性を守り育てる」という表現になり、具体的には、湧水の保全・復活等も含む広い概念である。

地球と暮らすまちづくり

スイス・ドイツに学ぶ近自然

長谷川明子著

ISBN978-4-7655-3433-8
A5判・176頁 本体2200円＋税



夏は小川で涼をとり、冬はゴミの燃料で暖かく、夜になれば星が瞬き、いつでも土の上を散歩できる。そのように地球を感じながら笑顔で暮らす方法を実践している国がある。本書は、環境と都市生活の両立を目指して、長い試行錯誤の経験を積んでいるスイスとドイツの先進事例をまとめた。地球温暖化が深刻化するなか持続可能なまちづくりが求められている。これらの事例から学べることは多い。

[地域計画]実践・地方都市のまちづくり

花岡利幸著

ISBN4-7655-1709-8
A5判・442頁 本体4700円＋税

著者の実体験による甲府都市圏における地域計画，都市計画，交通計画，観光計画に関する11の事例をとおして，まちづくりを成功に導くための要件や手法などを具体的に述べる。

ありふれた まちかど図鑑

住宅地から考えるコンパクトなまちづくり

谷口守・松中亮治・中道久美子著

ISBN978-4-7655-1716-4
B5判・207頁 本体5500円＋税

「まちづくり」や「都市再生」を考えるには，どこにでもある「ありふれた」まちの性質を知ることが重要である。日本にはたくさんのまちがあり，それぞれに成り立ちの異なるまちかどの風景を目にすることができる。そのような日本のありふれたまちかどを網羅し，その性質を客観的に整理した，まちづくりを考えるための図鑑。

津波に負けない住まいとまちをつくろう！

和田章・河田恵昭・田中礼治監修

ISBN978-4-7655-1820-8
A5判・228頁 本体1000円＋税

東日本大震災で犠牲になられた方は，90%以上が津波によるものです。そこで，来たる首都直下型地震や東海・東南海・南海地震に備え，津波減災対策が急がれます。本書では，防災や建築のスペシャリストが，津波のメカニズムなどを説明するとともに，津波に抗う鉄筋コンクリート造など重量化，鉛直避難を可能にする高層化，津波を受け流すピロティ構造など現代の建築ができることを提案します。

まちづくりのインフラの事例と基礎知識

サステナブル社会のインフラストラクチャーのあり方

日本建築学会編

ISBN978-4-7655-2523-7
B5判・184頁 本体2800円＋税

インフラストラクチャーも，地球環境へのより一層の配慮，縮退する都市への対応，後世への良質な社会資本の継承を，都市経営との整合を図りながら継続的に整備，維持される必要がある。まちづくりの実務者達が，インフラ整備の好事例を紹介しつつ，その背後にある大きな社会動向を解説し，社会資産として持続可能な建物を創出するための基盤整備の考え方や基本的知識を述べたもの。

田園で学ぶ地球環境

重村力編著

ISBN978-4-7655-3435-2
B5判・254頁 本体2500円＋税

田園体験を通じた環境教育というものについて，事例を紹介しながら，そのアプローチや学び方を考える環境「学問のすすめ」の書。農作業体験や，生物の育生，収穫活用の体験，農山漁村環境での生活体験などの田園における環境学習には，総合性，集団性，体験性，身体性という意味において他の手段による環境教育では容易に得られない特徴がある。土と生き物から子どもたちは何を学ぶのか。子どもたちの田園体験の意義について考える。